



03 新地方公会計制度に基づく令和2年度の財務書類を公表します

本市の財政状況について、1年間の現金収支に年度末の資産や負債の状況などを加えて、企業の決算に準じた形で公表しています。総務省が示す「統一的な基準」で作成した、普通会計の財務書類4表を用いて説明します。

▶ 財政課 ☎27-8601

貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

表の左側(資産の部)には本市が所有する資産の種類と金額を、右側(負債の部・純資産の部)は、その資産を取得したときの財源の出どころを示しています。

<p>■ 資産の部 1,416 億円</p> <p>固定資産 道路・施設など 1,200 億円</p> <p>投資その他資産 基金・出資金など 124 億円</p> <p>流動資産 現金・預金など 92 億円</p>	<p>■ 負債の部 市債など将来世代の負担額 285 億円</p> <p>■ 純資産の部 市税など今までの世代の負担額 1,131 億円</p>
---	--

純資産変動計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

貸借対照表の「純資産の部」の1年間の変動を示しています。

◎令和元年度末 純資産残高		1,170 億円
⑧ 1年間の変動		△ 39 億円
内訳	⑥ 純行政コスト	△ 335 億円
	⑦ 税込・国庫補助金など	295 億円
	資産評価差額など	1 億円
①令和2年度末 純資産残高 (◎+⑧)		1,131 億円

資金収支計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

現金の流れを示し、どのような活動に資金を使用したかを表しています。

①令和元年度末 資金残高		14 億円
② 1年間の変動		△ 1 億円
内訳	業務活動収支 (人件費・物件費・市税など)	13 億円
	投資活動収支 (建設費・基金繰入金など)	△ 40 億円
	財務活動収支 (償還金・借入金など)	26 億円
③歳計外現金増減		0 億円
④令和2年度末 資金残高 (①+②+③)		13 億円

行政コスト計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

行政サービスの提供にかかった消費的な支出の内訳を示しています。

⑤経常費用		349 億円
内訳	業務費用 (人件費・消耗品費など)	186 億円
	移転費用 (社会保障費・補助金など)	163 億円
⑥経常収益 (使用料・分担金など)		14 億円
⑦純経常行政コスト (⑤-⑥)		335 億円
⑧臨時損失		0 億円
⑨臨時利益		0 億円
⑩純行政コスト (⑦+⑧-⑨)		335 億円

分析

財務書類から分かること (前年度比)

- ① 純資産比率 79.9% (△2.1%)
総資産のうち、負債を除いた純資産の割合です。税金の減少などにより、前年度よりも減少しました。
- ② 1人当たり市債残高 33万7千円 (+5.2万円)
新斎場建設などに伴う新規の借入れが大きいことから、市債残高が前年度よりも増加しました。